

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001206		
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園		
事業所名	グループホームひより南(ユニット2)		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市曽根南町2丁目7番14号		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月11日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2774001206-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和7年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひより南は入居から看取りまでの安心・安全を、介護、医療、看護の連携で支えています。「共に生きる」という理念のもと、身寄りのない方や若年性認知症の方も受け入れ、時代の変化に応じた福祉の実践に取り組んでいます。専門的音楽療法を暮らしの中に取り入れるなど、ケアの専門性を持って認知症の方の安心した暮らしを支えています。また地域の中で暮らす社会の一員としての視点も大切に、地域行事にも参加しています。認知症の専門的ケアを支える人材育成に力を注ぎ、キャリアパスの導入や研修制度の充実により職員の成長を支援しています。共に暮らす仲間として、一日一日を大切に過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉概念の変革・共生社会を概念に掲げ、地域支援活動等を行う特定非営利活動法人オリーブの園が運営しているグループホームです。元女子寮を改修した建物の玄関前にはオリーブの観葉植物や季節の花が咲き、玄関を入ると「1歩1歩自分の足で歩いてください」とのメッセージが込められた大きな赤い木靴が飾られています。廊下は明るいカーペットを敷き、我が家に帰った雰囲気味が味わえます。音楽療法の利用者の歌声も聞こえてきます。「社会福祉概念の変革を理念とし、ふれあい文化の創設をめざします」の法人理念のもとに「共に生きる」を実践しています。理事長の、利用者・家族・地域社会のために変革し続ける揺るぎない思いは、現場に浸透しています。地域との交流も積極的に取り組み、利用者が地域に出ていく機会が多くあります。職員の人材育成にも積極的に取り組み、クラブ活動等を通して学んだ豊かな文化教養をサービス向上に活かしています。研修はリフレッシュできる機会でもあり、職員間の絆を深め、職員定着にも繋がっています。自分が働く法人が「成長できる職場環境」であることに職員は感謝と誇りを持っており、そんな職員が支える利用者の表情は、いつも穏やかで生き生きしているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人創立時より、「共に生きる」を理念としている。相互に学び築き上げる信頼関係から「利用者満足、家族満足、職員満足」がはじまると考え、朝礼時には介護の理念をまとめた法人憲章を唱和している。	「社会福祉概念の変革を理念とし、ふれあい文化の創設をめざします」の法人理念のもとに「共に生きる」を実践しています。また理念をもとに毎年目標を掲げ、今年は「目にみえないものを、みる力」とし、基本方針の「目をかけ、気をかけ、手をださず」を職員間で共有し、ケアの実践に繋げています。「職員憲章九ヶ条」を定め職員は常に携帯し、朝礼では「介護の理念の心得」を唱和しています。理事長の、利用者・家族・地域社会のために変革し続ける揺るぎない思いは、現場に浸透しています。ホームの名前ひよりには、「心はいつもいいひより」の思いが込められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から回覧板や福祉だよりなどを届けて下さったり、地域の行事にはお誘いをいただいている。公民館の味噌作りやふれあい喫茶などにも出かけた。またタオルや衣類、食器などの寄付を持って来られる方もいる	地域との交流は積極的に行っています。ホーム前に介護及び認知症相談の看板を掲げ、地域住民の相談を受けています。昨年、ホーム隣のアパート1階に相談ルームを作りました。実習生・図書館・銀行等たくさんの場所で認知症サポーター養成講座を開催し、啓発活動にも努めています。地域が主催するイベントには積極的に参加し、ふれあい喫茶や味噌作り、シルバーハウジング(高齢者用集合住宅)での行事で地域住民との交流があります。服部ふれあい緑地公園の春フェスタでは世代間交流もできました。地域住民からのタオルや衣類、食器等の寄付も多くあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催など、啓発活動に努めている。ホームの隣には相談室があり、介護相談や今後は伴走型相談事業にも参加できればと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期開催を実施している。参加者も多く、意見や評価を頂いている。グループホームひよりとの合同開催もあり、勉強会を中心に地域の方々と共に認知症の知識を深めている。	運営推進会議は、利用者・家族代表、民生委員、校区福祉委員、自治会役員、市社協職員、地域包括支援センター職員等多くの参加者で、「運営推進会議開催モデル施設」として先駆的な役割を果たしています。会議は、ホームの活動状況報告や課題を話し合うだけでなく、参加者も共に学びあう機会となり、質の高い内容となっています。最近では『消えた老人ホーム』の事例鑑賞や「介護予防体操」を一緒に行いました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携については、当法人は生活保護や特別な福祉ケースの受け入れもあり、行政とはケース連携会議なども頻回に行っている。	市とは連携をとり、情報交換等で協力関係を築くように取り組んでいます。生活保護のケースワーカーとも連携を密にしています。法人は、市から「就労支援事業」「シルバーハウジング生活援助員事業」を受託しています。厚労省が呼びかけている「認知症伴走型支援事業」にも取り組む体制作りができています。理事長は、認知症を支えるためのネットワークを作りたいと考えています。	認知症伴走型支援事業で、長年積み重ねた認知症ケアの知識や技術の専門性が発揮できることが期待されます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については人権侵害という視点から基本的には行わない。ただし、非常時の感染予防対策としての隔離はやむをえず、行政指示に従わざるおえない場合もある。	9つの班のQOS(クオリティ・オブ・スタッフ)委員会があり、身体拘束については、「人権侵害対策委員会」を身体拘束虐待防止委員会と位置付けています。虐待や身体拘束は人権侵害にあたるとして、職員の人権意識や人間力を高める研修を行っています。社会保険労務士によるハラスメント研修も実施しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については職員への懲罰思考ではなく、温かい組織風土づくりが優先されると考えている。多様な視点での組織風土づくりを含めた研修を目指し努めている。働く喜びやチームワーク、ストレス対応など虐待防止に対しての理解が深まる様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度は成年後見制度の活用を促進出来る様に努めており、任意後見などを活用する利用者もいる。弁護士、司法書士、福祉事務所ケースワーカー、ケアマネジャーなどとの連携会議の場や機会の調整を含め適宜に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や事前面接、契約書類等に関しては説明と納得が必要となるが、わかりにくい部分もあるかと思われる為、インフォームドコンセントの姿勢として、相手の立場に立つ事を優先している。文字だけでなく、イラストなども活用し、時間をかけながら、質問にも丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者意見は目安箱を館内に設置し、運営に関する重要な事は家族会で話し合いをおこなっている。緊急な事は電話やメールで伝え、重要な決定事項はサマリーで伝えるなど様々なタイミング、機会を捉えて情報の共有に努めている。	利用者の自治会があり、「食べたいもの・行ってみよう・やってみよう」等の意見や要望を尊重しています。家族の面会は現在予約制となっています。家族に送る介護計画や成果サマリーは細かく丁寧な内容で、日々の様子がわかると家族の安心と喜びに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見の反映は、気づきの為の館内ツアーを行い、平素は見落としがちな事、整理整頓、危険箇所等の改善意識を持てるように工夫している。また職員アンケートを実施し結果をグラフ化するなどで可視化し共有を図っている。	職員は、定例の職員会議や日常の業務の中で改善事項や課題について話し合っています。また、災害・看取り・人権侵害・人材育成等9つの班のQOS委員会があり、それぞれ自主的に業務改善に向けた取り組みが行われており、職員の気づきを業務の改善へと活かす仕組みができています。職員の人材育成にも積極的に取り組み、クラブ活動等を通して学んだ豊かな文化教養をサービス向上に活かしています。研修テーマは多岐にわたり、「二十四節気七十二候」の研修では、細やかな季節の移り変わりを学びました。研修はリフレッシュできる機会でもあり、職員間の絆を深め、職員定着にも繋がっています。また、資格取得支援体制も充実しており、介護福祉士国家試験に今年度は4名が合格しました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労関係の整備はキャリアパスにも取り組み、今後もより良いものへと構築していく方針。福利厚生ではクラブ活動の推進、功労者表彰、勤続表彰、資格取得表彰などのお祝い会を開催するなど、チームの帰属感を図る工夫をしている。身体的、精神的な健康管理や各種相談、資格取得に向けての支援など向上心を持ち働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成については、資格取得を目指して内外のジョブトレーニングを提供している。職員の満足度に対するアンケートも実施し課題の抽出にも取り組んでおり、ストレスマネジメントなども実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は事業者連絡会などを通してのネットワークづくりをしている。グループホーム協会の大会等にも積極的に参加している。近隣の事業者との連携は相互に知り合う事や情報交換を行うなど手探りながらもすすめている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築く信頼関係については不安の解消を目的に傾聴や共感的態度に努めている。馴染みの関係になるには時間もかかると思われるが、常に道先案内していくことによりラポール形成を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期は家族の心配も大きいと思われる。ケアの方向性はご家族の思いを聞きながら暫定計画書で説明したり、入居後のご様子を電話などでお話するなど、インフォームド Consent と情報提供で信頼関係づくりが出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に必要な支援は個々に状況が異なる。本人や家族にとって必要なものを見極める情報交換に努めると共に、提供できるサービスについての説明を行う。医療などの移行調整支援、引越し支援、成年後見などのリーガルサポートに繋ぐ支援等法人として様々な情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごし合える関係は介護の理念でもあり、社会福祉のワーカビリティでもある。靴を脱いで上がる、同じ釜の飯を食べるなど利用者との対等な関係性、相互に尊重し合える空間作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支え合う関係においては、グループホームは在宅サービスであり、家族のレスパイトを目的としている。家族との関係を守りながら、共に支え合う支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れず暮らせる様にニーズに応じて支援している。友人がお菓子などの差し入れを持って面会に来られたり電話をかける方もいる。面会時の環境や接遇などにも配慮している。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者に大切なことと理解し、支援に努めています。近所の友達が差し入れを持って訪問したり、帰宅して親戚との久しぶりの再会を楽しむ利用者や入居前の習慣であったプールに家族と行く利用者もいます。また、毎年の餅つきや味噌作りでは、利用者が昔取った杵柄を発揮しています。音楽療法の時間は、昔馴染親しんだ歌を歌って、懐かしむ利用者の表情を見ることが出来ます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	廊下にソファを置いて仲良しの入居者さんとお話をしたり、食堂でおしゃべりをしているときにお茶やお菓子を提供するなど、汎用性の高いティータイムを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去されたご家族様などにはグリーフケアとしてお手紙の交換をするなどの関係性を維持している。退去の家族様より寄付の品物を頂いたり、お話に來られコーヒーを飲みながら懐かしむ方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの意向の把握については利用者間の自治会があり、会議やインタビューで行きたい所や食べたい物、したい事などを話し合っている。それらの意向に沿った行事を立案している。	ケアの考え方基本マニュアルがあり、「介護」ではなく「ケア」の考え方が現場に浸透しています。職員は、日々利用者に関わりながら、思いを積極的に聞くようにしています。「利用者自治会」でも利用者一人ひとりの思いや希望を聞きとっています。自治会は、利用者の思いや意向を聴く貴重な時間と位置付けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについては本人を知る上での大切な情報である。事前面接時に本人や家族、担当のケアマネジャーから情報を頂き、それらをナラティブケアアプローチとして信頼関係づくりに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの状況の把握は介護度、自立度だけでなく、個々の持てる強みに着目している。生活習慣の中の様々な動作、能力をADLに沿ったストレングスケアとして捉え、レクや行事等の計画に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は日々動くものであり、課題や問題などの情報をPDCAサイクルの中で回しながら、モニタリングやアセスメントを行っている。事業所ではカードックス方式を活用し、チームカンファレンスで情報を出し合い、日々の変化に対応している。	介護計画書は、利用者本人、家族、職員、医師等から収集された情報を基に、担当者会議で話し合い、意見を出し合った上で作成しています。入居時には、当面の介護計画を作成し、入居後1週間は生活全般についてモニタリングを行っています。介護計画書には、家族の確認の署名を受ける欄に、要望・意見を記載する項を作り、家族が意見を出しやすい工夫をしています。職員間での介護計画の共有は、カードックス方式を活用し、情報を把握しやすいようにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は長期や短期の目標に向けて計画作成されるが、それらは日々の気づきや観察などの積み重ねの中で方向性が決まるものである。記録はSOAP方式で書けるように努め、ケースカンファレンスでのケアの見直しのフィードバックも心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化に関しては実習生や介護を目指す方の就労支援の場としての人材育成に活用している。音楽療法のセッションの場として取り入れ利用者や家族にも好評である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のバザーや味噌づくり体験、ふれあい喫茶などに出かけ地域交流やリフレッシュできる機会を要望に応じて提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の中で、納得した医療が受けられるように支援している。定期診察、予防接種、投薬処方、歯科診察、耳鼻科とも連携している。入院が必要な時にも看介護サマリーを提供し、メディカルソーシャルワーカーとも調整をしている。入居前からのかかりつけ医の継続も支援している。	協力医療機関より神経内科の医師が訪問診療しています。定期の訪問診療は2週間に1回ですが毎週来訪、看護職員も24時間オンコール体制を取り、療養管理を行っています。医療連携に新しく耳鼻科が加わり、半年に1回、入居者の耳垢を除去しています。歯科の訪問診療では、口腔ケアの助言や指導もうけています。夜間や緊急時には感染症に罹患していても入院の受け入れが確保出来る2病院と新たに提携しました。搬送は救急救命士の資格を保有した職員が同乗し、ホームまで迎えにきます。入居前のかかりつけ医への受診も可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働は医師との情報の共有、日々の健康管理、異常の早期発見、介護職へのスーパーバイズ、感染予防、救急対応など現場での様々な汎用的スキルの指導をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は症状についての経過や留意点についてサマリーなどの提供や事業所ケアマネジャーと病院のMSWなど、窓口を定め、家族、本人の意向に沿うように、方針を決めるなどなど、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けての方針は契約時より説明しているが、書類だけでなく、わかりやすい冊子なども用意しており、看取りなどもイメージできるように手渡している。また医師からも老化についてなどの丁寧な説明もある。	重度化や終末期の対応は入居時に指針に沿い家族や本人に説明し、意向を確認しています。分かりやすいイラスト入りの冊子を使用し対応支援やケアの継続についてどこまでやれるかしっかりと説明し同意を得ています。実際に終末期を迎えたら、適宜意向を確認し、医師、看護師、職員で話し合いながらホームで出来る最大限の支援を行っています。今年度は1名の利用者を看取りました。看取り後はデスクファレンスで振り返りを行い、次に繋げています。又、職員アンケートも毎年実施し、医師を交えてのターミナルケアの研修も開催しています。家族には思い出の写真集を作成し贈っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時の様々な状況をイメージできるように誤嚥などのトレーニング、報告連絡について、対応備品の定位置、予防対策について、また焦らずに救急車が呼べることを目的とした救急隊への通報なども含めて訓練している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との災害訓練は自治会などに参加している。災害BCPコンプライアンス委員会を中心に地域との協力体制に努めている。	年2回の防災訓練や消防避難訓練を利用者も参加し実施しています。各種災害のマニュアルも整備しています。災害時の備蓄は飲料水や食料品、衛生用品など3日以上保管し賞味期限を明記しています。防災頭巾やライフジャケットも利用者と職員の人数分準備しています。災害センターの見学にも行きました。BCPを策定し災害対応机上訓練では感染や風水害も想定し、実施しました。消防署がホームのすぐ近くにあり協力関係ができています。1月に近隣の小学校で行われた防災訓練では、地域住民と一緒にガレキの中を歩いたり、給水体験、ポンプ車見学、防災テント体験や震災上映会などに参加しました。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個々の生活歴では、職業や生き方、価値観、宗教、教育、家族構成などそれぞれが異なる。一人一人に敬意を払いながら、「ですます調」で丁寧なホスピタリティーのある声かけに留意している。毎朝礼時に「心得」を唱和したり人権標語を読んで尊厳の意識を高めている。	職員は職員憲章9条に基づき利用者個々のこれまでの生活の継続を大切に、その場の状況に応じたさりげない自然な言葉掛けや対応をこころがけています。職員憲章9条を記載したカードは常に携帯しています。接遇や人権についての職員研修を実施し、新人研修のマニュアルでは「お客様の視点」にたった、基本の挨拶、身だしなみについても学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中の小さな自己決定であっても尊重し、その人らしさを大切にできるように、利用者自治会での機会や茶話会などの機会を提供している。おやつの時などにもインタビューできるよう心がけている。	、	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは家庭的な環境であり、規則や決まり事を優先するのではなく、その人らしい生活習慣を尊重している。朝刊をゆっくり読んでいたり、昼寝をしたい方、趣味活動など、個々のペースで過ごせるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに合わせた外出支援、色の好み、季節感、髪型、マニキュア、化粧、帽子、手袋、ショールなど様々な要望など、身だしなみ支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は提供されるばかりではなく、生活リハビリとしても生活役割としても、下ごしらえや食器拭き、片付け、おやつ作りなどを支援している。ファーマーズクラブが野菜の栽培をしており収穫できた野菜も楽しみにしている。	食事は週5日は職員が手作りし、2日はお弁当を頼んでいます。献立は栄養面や利用者の嗜好を加味、利用者自治会の会議で必要な要望などを盛り込み、職員が立案しています。食事形態も利用者の嚥下状態に合わせて、ソフト食は「味も見た目も普通食に近い」にこだわり、提供しています。利用者は、豆の皮むきなどの下ごしらえや食器拭き、おやつ作りなど出来ることを手伝うなど、ストレングス(強みや長所)な部分を活かしたケアを心がけています。ファーマーズクラブが栽培する四季折々の野菜を利用した、盛りだくさんでバラエティーに富んだ行事食やおやつ作りなどは、職員も楽しみながら企画しています。同法人のグループホームひよりで作成し、利用者家族に好評の食事カレンダーをひより南でも作成予定です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給は介護計画の中に立案されているが、個々の状況については管理栄養士の栄養指導のもと食事形態、食事の好みなども配慮して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の口腔ケア指導により、個々のうがい方法や歯磨き方法など、また入れ歯の管理など、一人ひとりのできる力を見極めセルフケア計画にそって支援している。うがいの困難な方にはマウスウォッシュでの口腔ケアや緑茶を飲んでいただくなどの工夫も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗は汚染により、自尊心が傷つくことが予測される為、個々の排泄サインの把握、排泄リズムの把握、誘導のタイミングなどで失敗を予防出来るように努めている。各居室にトイレがあることも特色である。	トイレは各居室にあります。職員は、排泄チェック表を記録し、利用者ひとりひとりの排泄パターンを把握しています。トイレでの排泄を大切にしながら、声掛け時はさりげなく、些細なサインも見逃さないように心がけています。利用者本人が排泄表をチェックしているケースもあり、排泄のリズムをつかみ、紙パンツから布パンツに移行できた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防には水分や運動など基本的な配慮だけでなく、医師、看護師、薬剤師、栄養士などの指導により個々の状況に応じた働きかけをしている。毎朝のラジオ体操など運動も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入浴習慣を把握し、入浴時間、好みの温度、入浴頻度、などタイミングを合わせることや季節の柚子湯、菖蒲湯、入浴剤の工夫、また仲の良い人と入るなど、ホットコミュニケーションに努めている。	入浴は週3回を基本とし利用者の体調や希望を確認し、柔軟に対応しています。夜の入浴も可能です。浴室は1階に2～3人一緒に入れる広さの浴室と2階には個室があります。仲の良い利用者同士一緒に入る風呂はコミュニケーションの場にもなっています。ゆず湯や菖蒲湯等の行事湯を楽しんだり、個人の好みのシャンプーや石鹸を使用している利用者もいます。昨年末には、1階浴室の改装工事を行いました。タイルをきれいにしたり、危険と思われる場所を改善し、明るさや安全性に配慮しました。またランドリースペースを併設するなど、効率化も図っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、個々の睡眠スタイルがあり、温度湿度の居室環境、リネン環境などを整えることや入眠前のそれぞれの習慣などを把握し、排泄や水分補給、昼夜の温度差などにも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の訪問服薬指導のもと、投薬に関する副作用症状の理解の促しや投薬効果のモニタリング、アセスメントなどを医療連携として、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活役割により、自己有用感や張り合い等を持ち充実した日々を送れるようにストレングスケアを主にストレス緩和やリフレッシュ感が持てるような工夫をし、職員は謝意を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩や近くのスーパーでの買い物などを楽しまれている。季節行事として桜の花見や紅葉狩りに出かけたり、地域の催し物なども楽しまれている。	日常的に近隣を散歩したり、希望があれば近くのスーパーに買い物に出掛けています。野球が好きな利用者はコンビニエンスストアにスポーツ新聞を買いに行くなど利用者一人ひとりのその日の希望にそって、外出の支援をしています。季節を通しての法人内の外出行事は家族会や利用者自治会の要望や意見を取り入れ企画しています。地域の行事にも積極的に参加、服部緑地で開催された春フェスタにも出掛けました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事先での買い物や近所のスーパーでの買い物を楽しまれている。コンビニで雑誌やスポーツ新聞を購入する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、年賀状、暑中見舞い、ZOOMなどでの面会なども必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりとしての環境に配慮して、空間デザインやホスピタリティーコミュニティに努め、季節レイアウトやわかりやすく馴染みやすい環境に努めている。	玄関前には願いのこもった大きな赤い木靴を飾っています。廊下の壁には動物の焼き物風の作品を飾ったり、2階には職員や地域の住民が応募したフォト展の作品を掲示したりしています。また、座り心地など考えて選んだソファやイスを設え、ゆったりと過ごせる場所になっています。昨年秋口より1階の浴室と食堂の老朽化対策リフォーム工事を行いました。感染症対応の減圧室が2部屋あります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはくつろげる椅子やソファなどを設置したり、食堂ではテレビやYouTubeでお好きな番組が鑑賞できるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使い慣れた家具や配置などについて個々の好みや要望に応じて、写真を飾る、インテリアを工夫する等その人らしい居室となるように努めている。	各居室のドアには名前を書いたプレートを下げています。又、「一歩一歩自分の足で歩いて下さい」との願いをこめて、木の靴(サボ)も飾っています。室内にはエアコンとトイレ、洗い場(ミニキッチン)、大容量の押し入れを備えています。入居時には家族と利用者を使い慣れた馴染みのものやタンス等の持ち込み勧め、居心地の良い部屋になるようにと努めています。寝具は衛生面から新しいものを準備するように説明しています。お気に入りの三面鏡やお針箱を持ち込んだり、阪神タイガースのグッズでいっぱいの部屋、音楽が大好きだからと家族がCDを持参するなど、使い慣れたものや好みを活かしたその人らしい居室になっています。国が推奨している生産性向上の取り組みのひとつとして、全居室にベッドセンサーを取付けました。	ベッドセンサーのデータの活用により安心安全な生活に繋がり、さらなる暮らしの質の向上が期待されます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リアリティオリエンテーションの工夫により見当識障害に配慮した、わかりやすく安全、安心な環境づくりに努めている。		